

### ■20年1月の基本データ

新型コロナウイルスのまん延により、大混乱となっている中国。中国自動車工業協会は2020年2月13日になり、ようやく20年1月の中国新車販売台数と生産台数のデータを発表した。それによれば、生産台数は前年同月比24.6%減の178.3万台、販売台数は同18%減の194万台。

中国はもともと春節が変動的で、例年1月、2月の前年比にはあまり意味がないことが多いが、今回は特に、前年が2月春節、今年が1月春節で変化が大きい。しっかり見極めるためには第一四半期という範囲で考えるのがベターだが、それでも、1月のデータだけでも新型コロナウイルスが直撃している状況が確認でき、今後も楽観視できないことが明らかになった。

とはいえ、月間だけで200万台前後の車が売れている、という現実。これは日本の新車年間販売台数の半分近くに相当し、インドの年間販売台数の約半分、タイやインドネシアの年間販売台数の約2倍だということは認識しておきたい。しかも、もともと中国では1月、2月はあまり車が売れない時期でもある。中国の自動車市場があまりにも巨大であることがよく分かる。

純電動(BEV)とプラグインハイブリッド(PHEV)の新エネルギー車(NEV)だけで見てみると、より下げ率が大きく、生産台数は同55.4%減の4万台、販売台数は同54.4%減の4.4万台。昨年から続くNEV購入補助金の縮小、2020年には確実に打ち切りへの消費マインドの冷え込みの他、やはり新型コロナが直撃している。

### ■20年中国自動車市場の予測

中国では現在、2020年の自動車市場は例年とは様相が異なり、上半期と下半期で明確に分かれることになる、という意見が大勢だ。新型コロナウイルスのまん延が続くと考えられる上半期、業界は2桁以上のマイナス成長となり、終息していると考えられる下半期はその反動なども含めて急騰する、というもの。それでも、ほとんどの現地予想は、2020年通年でマイナス成長になる、というものが多い。そうなれば、中国自動車市場は3年連続で前年割れ、ということになる。

もともと中国の自動車市場は、1月、2月のロースタートで始まり、9月、10月の国慶節連休で購入意欲が旺盛になり、中国では年度決算月にもあたる12月に年越し前の駆け込み需要が発生して最大級に盛り上がる。だから翌1月、2月が反動もあって低調、というようなサイクルになるのだが、新型コロナにより、2020年はその傾向が格段と著しくなる、ということだろう。

また、まん延期は当然、終息後も一定期間、恐怖はぬぐえ切れず、移動における公共交通機関利用、シェアリングサービス利用が敬遠されることも確実。つまり、自分個人の密閉空間を占有できる個人ユースの自動車購入が加速するのが、2020年後半である、ともいう。